

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170400782		
法人名	(有)オフィス石井		
事業所名	メイハウス グループホーム		
所在地	063-0022 札幌市西区平和2条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400782-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間らしく生きる場所、共に生きるために、又入居者、職員で、共有理念に基づいたケアを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 11 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 1年前に開設した当ホームは、1ユニットながらグループホームとしての用途を配慮して建築された建物で、リビングとダイニングに二分されている広い共有スペースや2階のソファがある寛ぎスペース、居室毎に異なる暖かみを感じさせる模様の壁面など内部全体が優しさと家庭的雰囲気の中で利用者は居心地良く暮らしています。ホームは、法人代表が地域住民であり、町内会行事への参加など地域との交流にも力を注いでおり、隣接住民から野菜の差し入れや菜園作業を手伝って頂いたり、利用者や職員と住民の日常的挨拶や地元ボランティアによる慰問など地域との交流が進んでいます。職員は、利用者の生活を大事にするホーム理念や利用者への心構えを十分認識しており、利用者と職員が生活を共にして支え合う関係を大事にしています。そして、利用者がホームを終の棲家として安心して楽しく暮らせるよう一人ひとりに寄り添いながら支援しています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中に根ざし独自の理念を作り、ホーム内に掲示し、スタッフ全員で理念に基づいたケアを行っている。	利用者の生活を大事に支援する理念を持ち、職員の心構えと共にホーム内への掲示や事務分担表に表示しています。さらに、申し送りや会議などで理念を確認し、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所から、畑で作った野菜を、頂いたり地域行事やお祭り等に、参加している。	法人代表の住宅がホーム近くにあり周辺住民と顔見知りの関係であることや町内会行事への参加などホームの努力によって、住民から野菜の提供や畑作業の手伝い、日常的挨拶など地域の一員として交流があります。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、情報交換を行っている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会をはじめ郵便局も参加してくれている。要望意見が出され、検討を行っている。	会議には利用者及び家族、郵便局、農協、町内会会長等と多彩なメンバーで定期的に開催しています。会議ではホーム運営状況報告と質疑応答や要望等の意見交換を行い、運営に反映させています。	会議内容はマンネリ化を避けるため、テーマ設定と関連した講師による講話実施など会議の進め方の研究を期待します。また、会議議事録の様式及び全家族への議事録送付についての検討が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは、定期の連絡会で相互の意見交換が行われている。適宜連絡を取っている。	行政との連携は、主として法人代表の管理者が市の管理者会議に出席したり、窓口担当者と意見交換を行いながら市との協力体制構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員の共通意識を図っている。	管理者が中心となって身体拘束防止関連の外部研修会に参加し、ホーム内部の勉強会で全職員の共有となるようにしています。また、実務や会議等で身体拘束防止関連の内容確認と理解に努め、利用者へのサービスに反映させています。玄関の施錠は夜間帯のみです。	身体拘束防止関連の資料を見やすく整理してまとめて職員が随時、資料を参考にできる様にすると共に拘束のないケアサービスのあり方を再確認し、状況に応じて利用者へのサービスの方法を家族への説明と文書を取り交わすなどの検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、会議で話し合いをしたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で、必要な利用者には、活用できる様に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、ホーム内見学又は疑問点等十分に話し合いを重ね、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の喜び、悲しみを共感し理解出来るように努めている。又外出、外泊も自由に出来る様、家族の訪問等も自由になっている。	家族のホームへの訪問も多く、その都度、利用者の様子を伝え、意見や要望等もお聞きするようにしています。また、利用者の暮らしぶりを担当職員が写真に沿って毎月送付して家族に喜ばれています。家族からの要望等は申し送りや連絡ノートに記載し、内部で協議して運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度職員会議及び研修を行い、職員の意見を十分に反映している。	管理者やホーム長は、日常業務や毎月開催の会議を通して職員の意見や要望等を聞く機会があり、内容に応じてホーム運営に活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	親睦会等でスタッフの交流の場を大切にしながら、一人一人の得意な事を生かす場を作り、向上心を持たせ、元気のないスタッフには話を聞いたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場に於ける月一回の全体会議での研修、他機関の研修の参加、その他自己学習(資格取得等)の応援、又、個々に必要と感じた時には個別に面談している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの管理者の集まり等や管理者会議への参加をしている。相互見学等も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	8	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会い、色々な話をする場を設けている。自宅へ訪問し、相談を受ける時もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際は、必ず見学を勧めている。来られない方は、電話での相談等、ゆっくりと話を聞くことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状、家族等の聞き取り、必要な支援を提供出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、散歩、掃除等の活動において、スタッフと利用者が一緒に行う事を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常をご家族が来訪された時や電話等で連絡を取っている。近況を伝え、こちらで一方的に決定していくのではなく、家族と相談し問題解決している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生会、行事等に本人の大切にしてきた方々をお誘いし、楽しんでいただいたりしている。ご家族にもお願いし、本人の行きたい所へ外出して戴いている。	時には家族の協力を頂きながら神社参拝や花見などできるだけ利用者の希望に添えるよう支援しています。家族や知人が訪ねてきた際にも、気軽に再度訪問して頂くような雰囲気づくりに努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考慮しながら、利用者同士の会話の話題提供に努め、見守りの中で、その場に応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方も、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いが出来る様に心掛けている。又、家族からの相談を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情等から、その意思を推し測ったり、確認する様にし、意思疎通が困難な方には、本人の視点に立って話し合っている。	職員は、日常のケアサービスから経験的に思いや意向を把握していますが、困難なときは利用者と親身に話し合いをして本人本位に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から聞き取りを行い、利用者の方は日々の生活の中、又、家族来訪時に会話の中で聞き取るよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者、一人ひとりの生活リズムを把握、本人にあった生活が提供出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ミーティングで職員全員で意見交換している。	利用者の担当職員がモニタリングを行って利用者の状態を把握し、担当者会議に家族も参加して頂き、主治医にも相談してプラン見直しを検討しています。見直したケアプランは会議や申し送り、プランの閲覧などで全職員が共有しています。	ケアプランと毎日の介護記録は連動させて見やすく作成していますが、モニタリング回数及びモニタリングの進め方について検討し、利用者に最適のプランとなる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、日々に暮らしや様子を記録している。勤務開始前には、申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々の変化する状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、意見交換を行っている。年2回は防災訓練を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師、病院へ受診している。基本的には、家族同行の受診となっているが、不可能な時には、職員が同行している。	協力医療機関による月2回の内科系と毎週の歯科による訪問診療が行われています。かかりつけ医への受診には、できるだけ家族と職員が同行し、両者が利用者の状態を把握し、確認するようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、週1回の勤務なので、それ以外は電話で常に相談している。後藤田医院は24時間体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、密に情報交換し相談している。職員も面談に行き、利用者の心の安定に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合、対応について説明、都度家族と話し合っている。又、本人家族の意向をふまえた上、ホームで出来る事出来ない事の説明を行い、納得した上で、医療との連携を図っている。	看取り介護についての指針を作成し、家族に説明して同意書を頂いています。ホームでは過去に複数の看取り事例があるため終末期のケア経験を有する職員もおり、ターミナル研修も受けて主治医と連携を密に取りながら支援に務めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、ヒヤリハット報告書を活用、サービス改善に努めている。年2回防災訓練を実施している。救急救命講習を受講、緊急マニュアルを掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、消防の方に指導を受け、消火実演を体験している。	年2回の定期避難訓練を実施し、地域住民も参加しており、防災点検チェック表の使用や備蓄品も用意して災害に備えています。自然災害による停電などにも近くに居住して代表者や隣接する法人運営の高齢者共同住宅、近隣住民と連携して対応の予定です。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーに配慮した支援を心がけている。	職員は、利用者の食事や排泄関連などの失敗にも優しく話しかけてケアサービスを行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取り、生活の中で本人の好み等を考慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人気の持ちを尊重するよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に本人の意向で決めており、職員は見守り手伝う様にしている。美容室は、訪問美容室を利用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛付け、片付け等利用者が職員と一緒にいき、食事と一緒にしている。利用者の嗜好を理解し対応している。	外部協力者による食事献立ですが、利用者の嗜好や病状等に合わせた食事を提供しており、複数の車椅子利用者も食事時は、食卓の椅子を利用しています。利用者は、誕生日や季節行事の特別メニュー、庭でのバーベキューやランチタイムなど変化のある食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の摂取量を把握し、記録している。咽こみのある方にはトロミをつけ、刻み食など個々に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりが何処まで出来るか把握し、それに基づき支援している。義歯の方が多く、夕食後は入れ歯洗浄剤等で除菌している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のチェック表を使用し、排泄のパターンを把握し対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握し、時間や利用者の様子を見ながら声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。下着類も頻繁に取り替えて不快感が無いように対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事。間食時に水分等を取り、便秘予防に気をつける。下剤の服用は医師に相談する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴可能であるが、予定を立てている。予定の日に入れない時は、次の日、又は本人の好きな日に入ってもら様努めている。	入浴は、日曜を除く毎日の午後に実施し、週2回以上の入浴を原則としています。現在、入浴を拒むの利用者は殆ど居ませんが、その場合は、話しかけの方法を工夫して入浴を実現しています。無理をせず日時の変更等の対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、離床と適度な活動を促している。ペースにあわせ休息も取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用、用法、用量について、薬局からもらった説明書を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	薬の効能や副作用、用法、用量について、薬局からもらった説明書を把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、外食、買い物に出掛ける機会を設けている。家族の方と病院に行った帰り、自宅に寄って来る方もいる。	利用者は気候状態に合わせてホーム周辺の散歩、庭や隣接地の畑と花壇の手入れを手伝っています。また、年間行事計画を立てながら車両で花見、製菓工場やお祭り等の見学、大倉山で景観鑑賞など各地へ出かけて楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用については、本人、家族と話しながら対応している。預かり金ノート記入、個々に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があった時は、その都度対応出来る様にしている。年賀状等利用者の作品を家族に送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえる様、利用者と共に花や絵を折り紙で作成し、手作りの物を飾ったり、日常生活や行事で撮った写真を貼り出している。居間、各部屋にもご自分で飾って楽しまれている。	グループホームの用途に合わせて建築したホームは、広くて明るく二分されたリビングとダイニング、ウッドデッキ、ソファセットのある2階の寛ぎスペースがあります。さらに、4カ所のトイレや浴室も臭気が無く清潔感を維持しており、手作り作品や季節の飾りで親しみと家庭的雰囲気のあるリビングで利用者は毎日を気持ち良く過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽を日常で流したり、季節の草花等身近に感じられる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が、湿度に応じて換気を行い、調整に気をつけている。臭いがある所は、消臭剤を使用している。	居室には収納スペースの広いクローゼットがあり、居室毎に異なる暖かみのある雰囲気の模様がある壁面で落ち着く居場所となっています。利用者は、馴染みの家具類や物品類を自由に持ち込んで好きな配置をして居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリー、エレベーターを使用している。[トイレ]の案内を見やすくし、認識が出来ない方は、職員が案内する。ウッドデッキでは、外に出て風を感じる様にしている。		